

# 理科

## における深い学びに到達した児童像

柱① 情報の分析	柱② 考えの形成 ・再構築	柱③ 既習・新知識 の活用	柱④ 課題発見
<b>深い学びポイントとの関連</b>			
3自力 4協働	3自力 4協働 5練り上げ	2見通す 3自力 4協働 5練り上げ	1つかむ 2見通す 6メタ認知
◇実験結果などの情報を見極めて、再構築する。	◇協働的な活動を通して、自分の考え方を整理している。 ◇根拠を基に自分でまとめ（結果の考察）を表現することができる。	◇既習事項を生かして予想や仮説をもち、それらを基にして観察・実験の方法を考えることができる。	◇既習の見方・考え方を次の学習や、日常生活における問題や課題の発見に生かすことができる。

### 児童像の実現のために効果的だった手立て

#### 【個別最適化】

- ◇ タブレット利用による学習資料の活用

#### 【学びの自律化】

- ◇ 生活経験を基に、自然事象について個別に考える時間の設定

#### 【探究化】

- ◇ 既習や実験・観察の結果などの根拠を基にした、自力での考察やまとめ
- ◇ タブレットを活用した記録方法による、情報の整理・分析・共有

### 実践の成果(○)と課題(▲)

- 生活経験を基に、個人で考えてからグループで話し合う時間を設定したことで、根拠をもった意見が出され、話し合いが深まった。
- 実験・観察の記録では、他グループとの結果共有にタブレットの活用が効果的であった。全体の結果を共有することで、理科的事象の規則性が見だしやすくなった。
- 実際に観察することが難しい単元では、タブレットの活用が有効だった。
- ▲ 思考ツールの活用など、個々の問題を自ら解決するような授業構成を検討していく必要がある。
- ▲ 生活経験が乏しく、学習の対象となる事象が浮かばない児童が多い。話し合いの中などで、学習内容と具体的な事象を結び付けながら理解を深められるようにする。